

第3回

全国防災まちづくり フォーラム

2007.8.25 活動発表会
(京都市アバンティホール)

発表団体プロフィール



【関連開催】

2007.8.26 10:00 ~ 12:00 (同会場)

わたしたちの市民安全フェア 2007 in 京都

パネルディスカッション 「災害に強い街『京都』を作るために、企業・市民・行政・ボランティアは
何が出来るのか...私たちの選択と目標」

第1セッション 10:20 ~ 11:00

西大和6自治会連絡会

Q1.

主婦、高齢者、定年退職者、地域の子供、地元公務員、自治会役員



サバイバルキャンプ

Q2.

阪神淡路大震災後、近隣6つの自治会の自主活動

Q3.

自主防災活動の立上げに住民アンケート調査を行い、それに対応すべく先ず防災資機材倉庫を設置

Q4.

1. 担当役員の一部を固定する
2. マンネリ化させない
3. 新しさを取り入れる

Q5.

災害は不意にやってきます。備えあれば憂なし

柏野安心安全まちづくり推進協議会

Q1.

学区内各種団体役員及び委員

Q2.

全国安心安全まちづくり推進モデル地区として発足



柏野学区防災訓練

Q3.

30年ぶりに柏野親睦盆踊り大会の開催が出来たこと

Q4.

常に学区民があらゆる催しに参画する意識と行動を共にすること

Q5.

地区の安心安全は地域皆の力(協力)で成り立つ

名古屋市中村区日吉学区連絡協議会

Q1.

主婦、地域の子供、他学区内の防災部・女性会



夜間被災を想定した宿泊訓練
レスキューストックヤードの栗田さんの話を区役所で聞いたのが始まり

Q2.

消防科学センター理事長賞、審査特別賞をもらったこと、小学校運動場での一泊体験を市の広報テレビで取り上げ報道してもらったこと

Q4.

この活動の大切さを解りやすく、繰り返し説明し、隣人に理解させ役員間の融和と指導者のリーダーシップ

Q5.

万一の場合の生命、財産を奪う大災害に備える。解りやすい理解への指導と訓練参加しやすい場の提供、役員間の協力体制づくり、公共機関専門員の指導・協力

特定非営利活動法人春日住民福祉協議会

Q1.

春日学区の全世帯の方々

Q2.

昭和48年から住みよいまちづくり展開中、独居老人が火災により焼死されたのをきっかけに各町リーダーが勢揃いした訓練



Q3.

地域の避難場所が1ヶ所であったが、現実に即するように3ヶ所にした

Q4.

住民みんなが知恵を出し合って、防災活動をすることにより、災害時の対応の仕方が、よりきめ細かくなった

Q5.

自分たちが住む町で、これからもずっと住み続けたい。そのためには自治・福祉・防災 三位一体の活動が必要

- Q1.どのような方が参加されていますか？ Q2.活動のきっかけは何ですか？
Q3.最も印象的なエピソードは何ですか？ Q4.活動を永續させるコツは何だと思いますか？
Q5.あなたにとって『防災まちづくり』とは？

若葉台自主防災会

Q1. 主婦、高齢者、定年退職者、地域の子供、地元公務員



バケツリレー訓練

Q2.

平成17年度当初に自主防災活動を自治会活動の中心に据えることを提案し、防災委員を募集したところ、素晴らしい人材が集まった

Q3. 年末防火パトロールには、中学生3人が5日間連続で参加してくれ、「大声で『火の用心』と叫ぶと気持ちいいなあ」と言った言葉に防災委員も超感激!

Q4. こんな防災と違うのでは?との既存概念に捉われず、楽しみながら背伸びをせずにコツコツと幅広い活動を心掛け、防災委員相互のコミュニケーションを大切に、時には懇親会も実施します

Q5. 防火、防災、防犯、子供や高齢者の安心安全はもとより、地域の自然環境を守るための活動を含めた防災活動に地道に取り組み、若葉台に住んで良かったと一人でも多くの皆さんに思っていただけであります

光徳地区、大内地区、七条第三地区防災支援ネットワーク

Q1. 主婦、高齢者、地元企業、定年退職者、地元公務員、所轄消防団



防災講演会
「耐震診断と耐震改修」

Q2. 阪神淡路大震災における事業所と地域の連携による被害軽減の実例に基づき、消防署から地域自主防災会と事業所との災害時における支援・連携体制づくりの指導があった

Q3. 5年目(平成16年)の事業をそれまでの「救出・救護、消火、応急手当などの訓練」から「事業所からの一時避難場所の提供」という覚書にある防災支援を具体化した内容とし、自主防災会代表者等による一時避難所運営訓練としたこと

Q4. 関係者(構成団体の代表者等)と常に意思疎通を図り、事業内容について意見交換、検討を重ね、「地域の防災」という視点を失わないこと

Q5. 「継続は力なり」:地道に継続し続けることが防災意識を維持、向上させ、「災害に強い人づくり、まちづくり」となり、被害の軽減に役立つ

多摩センター地区連絡協議会

Q1. 地元企業・団体

Q2. 地元消防署からの防災協定の締結の働きかけがあり、協定に基づく相互支援体制の確立と訓練等の実施が行われることになった



会員企業合同の救命救急AED講習

Q3. 単独の企業を地域で横断的に組織して面的な広がりの中での防災の取り組みを積極的に進めるべきだという意見が各企業から寄せられたことは、意外な感があった

Q4. 訓練の機会を絶えず設ける。参加企業に、絶えず災害に対する危機意識を持ってもらうべく啓蒙活動を行う。防災まちづくりの核となる組織をしっかりとしたものにする

Q5. 防災は、街の持続的な繁栄のための基本的なまちづくりの要件である。安心して住める街には目に見えない防災の仕組みがたくさん用意されている。防災への対応は、日々の地道な準備と継続があって初めて本番で役に立つ

京都駅周辺防災ネットワーク協議会

Q1. 地元企業

Q2.

地下鉄京都駅での発煙事象をきっかけとして発足



京大防災研での地下浸水体験訓練

Q3.

日米首脳会談の際に、このネットワークでの取り組みが効果を発揮したこと

Q4.

防災だけに限らず、ご近所づきあいとしてのコミュニケーションを深めること

Q5.

日頃からのコミュニケーションが大切

- Q1.どのような方が参加されていますか? Q2.活動のきっかけは何ですか?
Q3.最も印象的なエピソードは何ですか? Q4.活動を永續きさせるコツは何だと思いますか?
Q5.あなたにとって『防災まちづくり』とは?

第3セッション 12:00 ~ 12:40

滋賀県立彦根工業高等学校

Q1.

学識研究者、地元学生、
地元公務員、建築士会、
自治会、商店街



Q2.

東日本では千葉の市川工業高校が木造住宅の簡易耐震診断に取り組んでいるが、西日本ではどこも取り組んでいない。本校で木造住宅の簡易耐震診断に取り組めないかと打診を受けたことがきっかけ

Q3.

アンケートでは、無料とはいえ高校生の耐震診断を期待するという結果が多かったこと

Q4.

使命感も必要と思いますが、楽しく活動することだと思います

Q5.

いろいろな団体と協同・連携しながら、災害に強いまちづくりを進めましょう。専門家でなくても参加は可能です

生徒による耐震診断

関西木造住文化研究会

Q1.

高齢者、学識研究者、地元企業、地元学生、地元公務員、地元の伝統技能者、建築設計者 施工者



腰板張り防火実験

Q2.

阪神・淡路大震災が関西の地震活動期のスタートであることを知ったこと

Q3.

大勢の方々のボランティア協力で行った自主研究・関西木造居住文化再生5ヶ年計画プロジェクト(1999年～)の取り組み

Q4.

活動の意義を理解してくれる人々の温かい励ましのひと言と手伝ってくれる人々の存在

Q5.

同じ悲劇を繰り返さないためにできることはたくさんあります。できる事から動こう！

高山市上三之町町並保存会

Q1.

町内の人々

Q2.

町並保存会が有り、その中の活動の一部として行う

Q3.

町内近所で酒造所の火災があり、全焼。土蔵も5棟焼けた火災に消防隊として参加、消火に努める。その他2軒の火災に対し出動

Q4.

特に消防については、毎年の訓練、普段の機器整備がかかせない。又、保存会の全般について、隣近所のコミュニケーションを良くしておくこと

Q5.

住民の生活を守ること。ひいては後世の人達にこの町並を損傷せず、美しいままの姿を伝えていくこと



伝統的木造住宅地内の防災機器収納庫

清水寺警備団

Q1.

地域住民

Q2.

昭和18年頃戦中の混乱期、昭和24年の法隆寺金堂の火災



本堂舞台の自主放水訓練

Q3.

寺への放火事件・過激派と思われる青蓮院茶室への放火

Q4.

通常は難しいが、当地域は大きな共通の利害がある

Q5.

人々の思いと心、そして継続

- Q1.どのような方が参加されていますか？ Q2.活動のきっかけは何ですか？
Q3.最も印象的なエピソードは何ですか？ Q4.活動を永續させるコツは何だと思いますか？
Q5.あなたにとって『防災まちづくり』とは？